

## 硫黄鳥島

概況（平成 17 年 10 月）

19 日に行った観測では、従来から見られていた噴気が認められた程度で、火山活動に異常はありませんでした。

10 月 19 日に気象庁長崎海洋気象台の観測船「長風丸」の船上から行った遠望観測によると、硫黄岳火口（島の北側、図 2）とグスク火山火口（島の中央部、図 3）から弱い少量の白色噴気が確認され、風下にあたる島の南西側では硫黄臭が認められましたが、火山活動には特に変化は認められませんでした。また、島の周辺に変色海域は認められませんでした。各火口の噴気の様子は、先月 9 月 2 日に海上保安庁が行った上空からの観測と変化はありませんでした。

なお、気象研究所と東京大学地震研究所が共同で実施している地震観測によると、期間中の地震活動には特に異常はみられませんでした。

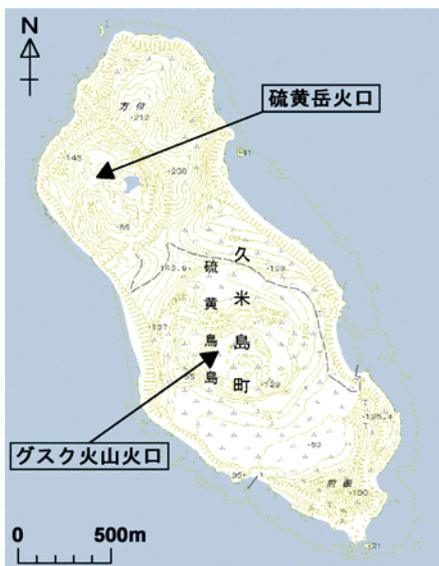


図 1 硫黄鳥島 火口の位置図



図 2 硫黄鳥島 硫黄岳火口（2005 年 10 月 19 日）  
弱い少量の白色噴気が認められた。（南西側から撮影）



図 3 硫黄鳥島 グスク火山火口（2005 年 10 月 19 日）  
弱い少量の白色噴気が認められた。（東側から撮影）